

## 令和元年 6月定例会 市長所信表明

ここに、議長のお許しを得て、私の尾道市政に対する考え方を申し上げたいと思います。

私は、先般の尾道市長選挙におきまして、市民の皆様から御信任をいただき、尾道市長として4期目の重責を担わせていただくことになりました。

引き続き、本市のまちづくりの舵取り役を任せていただくことを光栄に感じるとともに、市民の皆様と共に築き上げます、新たな時代にふさわしい、誇りある「尾道」のまちづくりに対する使命と責任の重さを改めて痛感しているところでございます。

昨年の7月豪雨においては、これまで経験したことのない甚大な被害により、本市においても、尊い命が失われることとなり、改めてお悔やみを申し上げます。

また、多くの地域において、断水、道路の寸断など、住民生活が大きく混乱する事態に至りました。

私も、災害発生の直後から、各地域に赴き、被害の状況を把握し、また災害復旧へ向けた説明などをさせていただく中で、このような大災害に対する備え、その対策について、多くの市民の皆様からご意見をいただきました。

改めて市民の皆様が安心して暮らせる、災害に強いまちづくりの必要性、防災意識をこれまで以上に高めていく重要性を、強く感じたところでございます。

現在も、1日でも早い復旧、復興に全力で取り組んでいるところでございますが、同時に、将来に向け安心して暮らせる「生活基盤」の強靱化、市民の皆様による地域防災の取組など、市民の皆様、また議員の皆様と一丸となって、災害に強いまちづくりに邁進していく所存でございます。

また、災害からの復興においては、以前よりもっと元気な尾道となるよう、市民の皆様をはじめ本市を支えてくださる多くの皆様のご尽力をいただきながら、各方面において着実に進んでおります。

本市の総合計画では、「多様で豊富な人財」、「歴史と文化に育まれた資源」、「交流を支える広域拠点性」として3つの尾道オリジナルを掲げております。

その本市の持つ力強い、まちづくりの源によって、まちの賑わいや、民間主体の地域活性化の取組も各地域で進んでおります。

本市は、本年、商都としての繁栄の礎である尾道港の開港850年、また、瀬戸内の十字路として四国地域との交流の基盤、さらに、自転車道として貴重な資源となっている瀬戸内しまなみ海道の全線開通20年の節目の年を迎えております。

850年という長い歴史の中で、先人から受け継いでまいりました港町、商都としての歴史、繁栄の礎は、現在の尾道の発展に欠かすことのできない財産であり、現在においても港町としての魅力は多くの方を魅了するとともに、地域の活性化に大きく寄与しております。

また、本市が中心に位置する瀬戸内の十字路は、各地域を有機的に結び、住民生活の利便性向上はもとより、産業振興の発展にも大きく寄与しております。

こうした中、アメリカ、ニューヨークタイムズ誌において、訪れるべき世界の旅行先で日本から唯一「瀬戸内の島々」が選ばれ、しまなみ海道、本市の魅力は、国内にとどまらず海外からも脚光を浴び、今後の更なる発展が期待されるところでございます。

サイクルシップの運航開始をはじめ、本年3月には尾道駅新駅舎の開業、また宿泊施設については、本市の特徴を活かした斜面市街地でオープンした施設や瀬戸田町で計画が進んでいる施設など、次々に尾道の魅力を高める民間投資の流れも生まれております。

この流れを止めることなく、もっと、もっと前に進め、新たな令和の時代を第4期黄金時代として、次代を担う子ども達が誇りを持って、豊かな生活を送れるよう「まちづくり」を進めてまいります。

令和元年の幕開けとともに、これまでの尾道を越え、情熱を「カタチ」にする私の4つの挑戦（基本政策）について、考え方を順次述べさせていただきます。

まず、初めに「みんなで助け合う安全安心な暮らしづくり」を進めてまいります。

先にも申しましたとおり、まずは昨年の7月豪雨災害からの早期復旧と復興に引き続き全力で取り組むとともに、将来に向けて安心して暮らせる「生活基盤」の強靱化、「消防力」の更なる充実強化を進めてまいります。

また、高齢者や障害者の皆様が、安心して暮らせる社会の実現に向け、「人生100才」に向けた健康寿命の延伸の取組、障害の有無に関わらず、共に支えあえる地域づくりを進めてまいります。

同時に、医療体制の充実と救急医療体制の維持強化、地域包括ケアシステムの更なる充実を着実に進めてまいります。

また、東尾道の丁卯新開地区の整備については、地域の活力につなげるよう促進してまいります。

第2に、「自分たちのまちに誇りを持ち、住み続けたいまちづくり」を推進します。

本市が日本で唯一、三つの認定を受けております日本遺産を活かしたまちづくりに継続して取り組むと共に、尾道港開港850年を契機として、海を見つめ直し、「港をゲートウェイ」とした本市の港町、航路の魅力を最大限に活かした「まちづくり」を進めてまいります。

また、地域の拠点として整備しております本庁舎、因島総合支所、御調支所は、防災拠点としての機能を有するだけでなく、新たな交流拠点の機能を有する施設として整備を進めます。

防災・交流拠点に市行政及び議会の機能を合わせた施設として、これからも市民の皆様と様々なまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

千光寺公園展望台、視点場については、市民の皆様だれもが、市街地景観の魅力を、最大限に体感できる施設として整備するとともに、新たな観光振興の可能性も見出せるよう整備を進めてまいります。

また、女性が働きやすく、生活しやすい視点を持った、「女性が輝き活躍できるまちづくり」を継続して進めることで、誰もが将来にわたり住み続けたいまち「尾道」としての取組を進めてまいります。

第3に、「地元産業を応援し、成長するまちづくり」を推進します。

全国的な問題となっております、雇用の問題、事業継承の問題など、産業振興における課題解決に向け、商工会議所等との連携による中小企業の支援、道路整備の早期実現、雇用確保と人材育成の推進について、本市の産業の振興を下支えできるよう取り組んでまいります。

一方で、新たな雇用の場を創出し経済の活性化を図る企業立地の推進や、官民連携による新たなビジネスモデルの構築による民間投資の更なる促進、市民と市、商工団体、大学、金融機関の多様な連携による商店街の魅力づくりなど、将来を見据えた新たな産業の成長についても取り組みを進めてまいります。

また、本市の基幹産業である造船業においては、引き続き本市造船産業振興ビジョンによる海事産業の振興を図ります。

さらに、本市の地域資源として全国に誇れる魅力ある農林水産資源については、そのブランド化を確立すると共に、稼ぐ仕組みづくりの構築、有害鳥獣対策を強化することで、将来にわたって安定した一次産業の振興に取り組んでまいります。

最後に、「子育て環境を充実し、子どもの未来を応援するまちづくり」の推進でございます。

妊娠期から出産・子育てまで切れ目ない子育て支援の充実を基本とし、親子が安心して過ごせるよう、遊び場や居場所づくりの充実を進めてまいります。

教育の面においては、就学前教育から中学校、高等教育までの教育の充実を図ると共に、教育環境においても、小学校の耐震課題への対応、小中学校の普通科教室には、この夏までにエアコン設置を行うなど、教育に必要な環境整備を進めてまいります。

保育の面については、認定こども園化の推進を図ると共に、男女共同参画社会の実現を図り、本市の将来を担う子どもの未来を、社会全体で応援できる環境づくりを進めてまいります。

人口減少、少子高齢化が進展する中、本市では次期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に向け取り組みを進めております。

現在の総合戦略の総括のもと、協議を始めたところでございますが、策定にあたっては、「将来の社会的変化を見据え、未来技術を活用することで、経済発展と社会的課題の解決を両立するための Society5.0（ソサエティ 5.0）」、「『誰一人取り残さない』持続可能な社会実現のための国際目標 SDGs（エスディージーズ）の達成に向けた取組」など、新たな時代の視点も取り入れることが重要と考えております。

私は、これまでも、新市建設計画の着実な実施による合併市町の一体感の醸成と、新市の一体的な発展を目指して、各地域の歴史や特性に配慮しながら、持続可能なまちづくりに、議員の皆様や市民の皆様と共に全力で取組んでまいりました。

今後も、先人たちが築き上げてきた本市の歴史、文化の礎のもと、次代を担う子どもたちに本市の未来をつなげていくためにも、尾道への追い風を止めることなく、この4つの挑戦を「尾道創生」とし、これまでの尾道を越えて行くまちづくりに全力を尽くす覚悟でございます。

議員の皆様をはじめ、市民の皆様、関係団体の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

以上で、私の所信表明とさせていただきます。

※本文は、口述筆記ではありませんので、表現などについて、実際の説明と若干異なることがあります。